



ゼロから創る奈良

奈良市長

2015.5.26 Vol.73

仲川げん
ニュースレター

書：紫舟

NEXT

4

TOPIC

大阪都構想と中核市

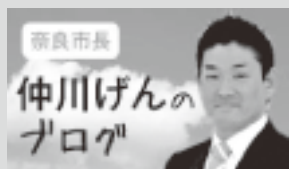
大阪都構想が僅差で否決となりました。連日の報道やCM合戦で隣町の奈良にもその過熱ぶりが伝わってきました。「強引な手法」や「世代間対立」を敗因とする評もありますが、私は今後につながる重要な議論が投げかけられたと受け止めています。もちろん、具体的な区割りや権限・財源の帰属についての完成度は議論の余地がありますが、市町村で構成する基礎自治体の機能・権限を根本的に見直そうという大きな問いは、私も中核市長会で長年提起してきた課題です。現在、日本で最大の基礎自治体である横浜市は、奈良市の実に10倍に相当する370万人もの人口を抱えています。奈良市の規模ですら地域ごとに異なる課題や特性を踏まえた運営は難しい中で、果たして370万人は妥当な規模と言えるのか。もちろん区を設置することはできますが、住民から直接選挙で選ばれた議員や首長はおらず、市が人事配置した区長を事務的に置く形では、どこまで地域密着の行政運営ができるのか疑問が残ります。そういう意味では区割りによって、より住民に身近な行政を推進しようとする考え自体は理にかなっています。

今回の住民投票では、「大阪市の解体」というイメージに住民の不安が集中し、「府・市・区の役割や権限を整理してより身近な行政をめざす」という部分が十分伝わらなかったように思います。また「区に中核市並みの権限を与

える」とされている部分も、現在我々が渴望している「中核市に政令市並みの権限を移譲」が実現すれば、結果は違ったかもしれません。一方、都道府県と市町村の間には「事務処理特例制度」と呼ばれるものがあります。これは双方が合意すれば都道府県が持つ権限を市町村に移譲できる制度で、全国的には権限を手放したくない都道府県が抵抗する傾向にあります。大阪に関しては両トップが同じ考え方ということを踏まえれば、「現行制度でまだやれることはある」とも言えます。

そんな中、先日中核市長会が開催され、今年度から奈良市が会長を務めることになりました。中核市は人口30万人以上の都市自治体で、保健衛生・教育・都市計画等様々な分野で自立した自治体経営を行うことができる制度です。県内では奈良市のみがこの権限を有していますが、他の市町村では物事を決める際に県の了解が必要となるような案件でも、市が独自に意思決定できるというメリットがあります。現在は45市ですが、地方自治法の改正によって5年以内に特例市(人口20万人規模・39市)と実質的に統合することになります。統合後は日本の全人口の約4分の1をカバーする市長会となりますので、都市制度の見直し議論を含め具体的な制度提案を実現していきたいと考えています。

市政の動きやmanifestoの進捗状況など、最新情報はツイッター、ブログにて更新中!



@nakagawagen

仲川 げん

■ Profile

1976年奈良県生まれ。立命館大学卒業後、国際石油開発帝石(株)及び奈良NPOセンターを経て2009年7月、奈良市長に就任。入札制度改革や土地開発公社の解散、ごみ行政の刷新など様々な市政改革に取り組む。日本のルーツとして、世界から尊敬される奈良をめざす。三児(5歳・3歳・0歳)と妻の5人家族。中核市市長会会長。AERA「日本を立て直す100人」に選定。現在二期目。

活動報告

[2014.12 - 2015.4]

仲川げんの動きをダイジェストでお伝えします。さらに「見える市政」の実現に向け、市HPでは「奈良市ニュース」を毎週金曜日に配信中!

12/10 観光



リニア中間駅の奈良市設置を求める決議を荒井知事に提出。中間駅は県内最大の交通需要を擁する奈良市しかない!

12/19 教育



教育の日に、和食の世界遺産登録に奔走された老舗料亭菊乃井の村田さんにグローバル人材についてご講演頂きました。

1/12 教育



奈良市の成人式は毎年、新成人有志による実行委員会が企画を考えます。今年はフラッシュモブで盛り上がりました。

2/9 観光



7社寺と5流派の協力を得て第2回珠光茶会を開催。今年は七千名を超える参加があり、冬の風物詩になってきました。

2/12 経済



販売が低迷する大和茶のブランド力向上を狙ってJAと共同で高級茶をプロデュース。デザインは秋田道夫さん。

2/28 観光



大和路を愛した写真家・入江泰吉氏の旧居を改修し、リニューアルオープン。式典には親交のある芸術家が集いました。

3/12 防災



いざという時に頼れる自主防災組織。市西部では昨年の西大寺に続き今年も平城で女性防災クラブが立ち上がりました。

3/24 観光



フランスでの大和茶と日本酒のプロモーションに合わせ、姉妹都市ベルサイユを訪問。マジエール市長と会談しました。

4/1 行政



今年は57名が新たに職員として入庁。経験者採用の実施により最年長は37歳と、多様な人材を積極採用しています。

4/18 観光



取り壊しの危機にあった築100年の町屋を「奈良町にぎわいの家」として改修公開。奈良町の生活文化を伝えます。

4/24 行政



終戦70年を迎える今年、思いも新たに春季戦没者慰霊法要に参列。これからも「戦後」を積み重ねなければなりません。

NEXT NARA

日経新聞「経済教室」への寄稿

5月5日の日経新聞に私の寄稿した「人材大交流で組織活性化」という提言が掲載されました。これまで市役所では異動はあっても転勤はなく、定年を迎えるまで「奈良を一步も出ることなく」過ごすことが可能でした。一方近年は市の採用試験に全国から優秀な人材が集まるようになってきています。彼らのモチベーションを落とすことなく、より幅広い視野や経験を手に入れるためには、日常的な民間企業との交流や転職・再就職が可能な「人材の回転ドア」が必要です。例えば民間の優秀な人材が、自分の持つ専門性や経験を「5年間だけ行政に提供する」というような働き方が増えれば、全国の自治体は格段に活性化するでしょう。ぜひ幅広い議論につなげたいと考えています。

仲川げん後援会

〒630-8301 奈良市高畑町826-1
FAX:0742-26-0398

ボランティア
募集中!

■ ご意見をお待ちしています

「市長への手紙」であなたの声をお聞かせください。「市長への手紙」は、市民の皆さんの市政に対するご意見やご提言を広く市政に反映させる制度として実施します。専用封筒は、市役所や公民館などの市の施設に配置しています。詳しくは、奈良市役所広報広聴課までお問い合わせください。

